

松阪市指定史跡

松浦武四郎誕生地

松阪市小野江町にある松浦武四郎誕生地は、松浦武四郎の実家にあたり、昭和37年(1962)に当時の三雲村が史跡に指定した場所です。

武四郎の父・時春には末っ子の武四郎のほかに、三人の子どもがおり、実家は武四郎の兄・佐七が跡を継ぎました。

武四郎の父母や、兄の家族が代々住んだため、武四郎にとってはふるさとの実家であり、現在は市の所有となっています。

誕生地の前の道は伊勢街道と呼ばれ、南に行けば伊勢神宮、北に行けば四日市の日永で江戸と京を結ぶ東海道につながり、伊勢神宮を目指したおかげ参りの旅人が行き交った道でした。

この道を歩く旅人は、武四郎が13歳の頃に起こった文政のおかげ参りで、1年に400~500万人に上ったとされ、街道を埋め尽くすほどの旅人に刺激を受け、武四郎は旅を志すようになったといわれています。

小野江町には、伊勢街道の宿場としてにぎわっていた頃の建物が残っていないため、当時の様子を知る上で貴重な建物であるとともに武四郎の没後も資料が大切に保管されてきた場所です。

市内、県内はもとより、北海道からも訪れる人びとが絶えず、この誕生地なくては、武四郎の生涯を語ることはできません。

主屋

生活の場所。武四郎の記録では、元は松島屋善兵衛の家でしたが、天保12年(1841)頃に武四郎の家族が移り住んだようです。幕末の家相図にもとうき、かまどを再現しています。

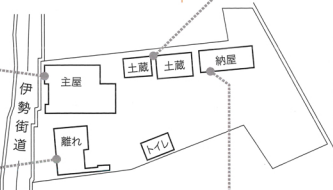


土蔵

明治時代に建てられ、武四郎に関係する資料が多数保管されてきました。後に、実家にある武四郎の資料の全てが当時の三雲町に寄贈されたことで、平成6年(1994)に松浦武四郎記念館が開館しました。



松浦武四郎誕生地 建物位置図



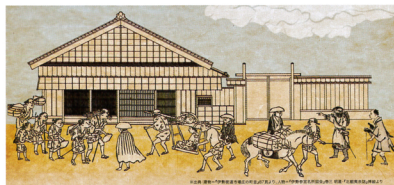
離れ

お客さんが来た時にもてなす場所でした。慶応3年(1867)頃に完成し、武四郎がお祝いとして、当時の著名な画家や書道家が寄せ書きをした襖絵を離っています。また、離れの庭には、武四郎の建てた灯籠があります。



納屋

棟札から嘉永7年(1854)に建てられたとみられ、大型の農具をはじめ、米を炊く釜や桶など、いろいろな生活道具が収納されていました。また、ここにお米を保管していたため、米蔵とも呼ばれました。



松阪市小野江町321番地
誕生地の道は狭いのでご注意ください
松浦武四郎記念館駐車場から徒歩7分です